

CONCIERGE

by Mochimaru shokuhin Co.,Ltd. 11/Oct/2021/vol.657

安納芋（鹿児島県産） “Annou-Imo” sweet potato

「安納芋」という名前は種子島の安納地域で栽培されてきたサツマイモのことです。今ではそのねっとりとした食感と誰もが驚くほどのコクのある甘さで全国区に知られるサツマイモとなりました。種子島には元禄 11 年(1698 年)第 19 代種子島弾正久基公に琉球王国の中山王尚貞より「唐芋」が贈られたことから、元々温暖で芋づくりに最適な地であったことも手伝ってサツマイモ栽培が根付いていきました。度々日本が飢饉に襲われても、「種子島は飢えを知らない島」と昔から称されてきたほど安定的に収穫され、人々の「生」を育んできました。第二次世界大戦後まもなく、スマトラ島北部の地域から1人の帰還兵が持ち帰った芋の苗が「安納芋」の歴史の始まりとなったそうで、種子島は太古の昔にミネラルが豊富な海底が隆起してできた島であり、起伏が少なく日当たりの良い環境も手伝ってか、今までに経験したことのない様な、まるでスイーツのごとく美味しくコクのある甘い「安納芋」が誕生したとのことです。当初登録品種として種子島でのみ栽培が認められていましたが、平成 25 年以降全国での栽培が解禁されました。しかし今でも種子島の安納芋じゃなければ…という人が後を絶たないのも、他の生産地とは明らかに違う土壌で育っているのはもちろんの事、島で人々が健康で生き長らえてきた感謝の思いが大きく繋がっているのもあるような気がいたします。